

## 第3版の序

輸血の安全性が高まるにつれて、輸血過誤や生物学的な副反応がクローズアップされています。これらの問題に対処するためには、医療関係者は分野を問わず、輸血に関する知識を深めておく必要があります。そのための早道は、輸血学の本を一冊読むことでしょう。

「本を読まないことは、海図を持たずに航海することに等しい」とは、医学教育で有名なオスラー博士の言葉です。「現代では、インターネット検索という電子的な羅針盤があるから大丈夫」という人もいるでしょうが、画面で眺めた知識よりも、本を読んで憶えたことは、記憶に残り実際に役に立つものです。

この本は、初版時から「よくわかる」ことを念頭において、一読するだけで理解できるように執筆されています。さらに、重要な順に章が構成され、数時間で読み通せるように薄くなっています。今回もこれらの主旨を変えず改訂しました。

皆様のお役に立つ本になることを願っています。

2018年2月

順天堂大学大学院医学研究科 輸血・幹細胞制御学 准教授

順天堂大学医学部附属浦安病院 輸血室長

大久保光夫